



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「入退院支援看護師の活動紹介」

地域連携室 入退院支援看護師 平安名 亜美

平成29年度より「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、医療ケアの継続を重視した方策へと転換し、地域移行に向けた取り組みが積極的に行われています。また、精神保健福祉法改正により、医療保護入院の入院期間が定められ、地域生活への移行を促進するために地域援助事業者や入院者支援員等との連携が一層求められるようになりました。このような背景を受け、精神科においても長期入院を当たり前としない質の高い入退院支援の提供が必要とされています。

令和6年度の診療報酬改定における精神科入退院支援加算の新設を受け、当院においても令和6年10月から入退院支援看護師が配置されました。

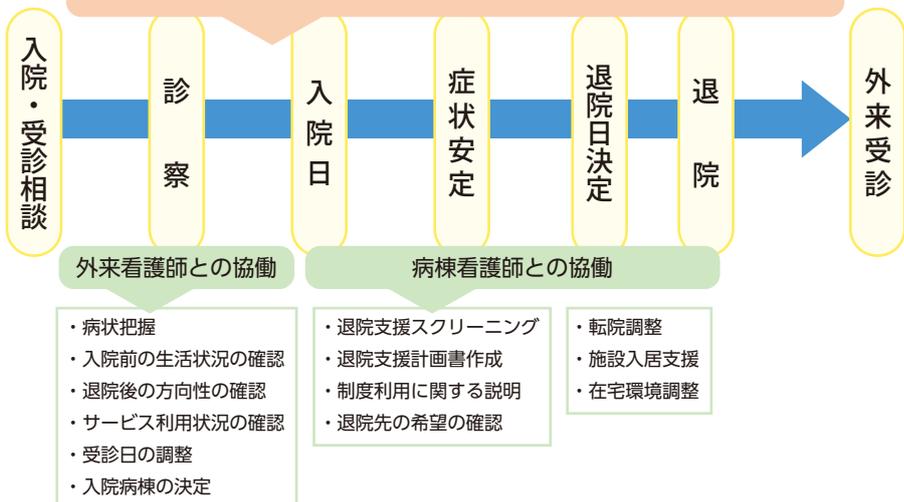
入退院支援看護師とは、患者さんが退院後の社会生活に困らないように、入院早期よりさまざまな職種と連携し、退院後の生活を見据えて安全・安心な生活が送れるよう支援する専門の看護師です。病棟ごとに担当者を決めて、退院支援が必要な患者さんの入院・受診相談～退院まで継続的に関わります。

当院の入退院支援看護師の主な活動としては、まず、ご本人、ご家族の希望を確認しながら意思決定を支援します。ご本人の希望を実現させるため、共に目標を考え、退院後に困りそうなことを一緒にイメージして具体的な支援を考えていきます。病状が安定すると在宅復帰のための練習や調整を行います。多職種、病棟看護師、外来看護師と連携しながらご本人、ご家族の入院治療をサポートし、地域生活との切れ目のない医療の実現に努めます。

12月からは担当病棟での活動を開始しました。退院後の生活に対するの気がりや入院中の困りごとなどありましたらお気軽にご相談ください。

当院の入退院支援看護師の活動内容

多職種(医師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、栄養士、薬剤師など)との協働



院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 353床

- ・精神 151床 (一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15 (土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ430例になりました。2024年12月のCLZ登録症例は2例で、いずれも他の精神科病院に入院中であった紹介の患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drnsnet.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

医療安全管理室のご紹介

医療安全係長 宮城 尚子

医療安全管理室の活動内容は、病院内の各部門の横をつないでいく、組織横断的な役割を担っており、患者さんが安全な医療を受けられる組織を作ることを目的としています。医療安全管理部門と現場の職員をつなぐ役割を担っているのが、各部署に配置されている医療安全推進委員の皆さんであり、以下の業務があります。

- ①各職場における医療事故の原因及び防止方法並びに医療安全管理体制の改善方法についての検討及び提言
- ②各職場における医療安全管理に関する意識の向上(各部門における事故防止確認のための業務開始時のミーティングの実施などの励行等)
- ③インシデント体験報告の内容の分析及び報告書の作成
- ④委員会において決定した事故防止及び安全対策に関する事項の各職場への周知徹底、その他委員会及び医療安全管理室との連絡調整
- ⑤職員に対するインシデント体験報告の積極的な提出の励行

また、医療安全に関する患者相談窓口としての役割もあります。患者さんや職員からの声を医療に活かすことも重視しています。何かお気づきのことがありましたら、患者相談窓口を通じて、ぜひ、お声をお寄せください。皆様の声を聴きながら、一緒により良い医療を作っていきたいと考えております。

こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では初診の際に、大まかな主訴や生育歴、家族構成などの基本情報について、問診票を記載いただいてから診察にご案内していますが、そのために少々お時間やお手間をいただくことがあります。現在、琉球病院のホームページからも『こども心療科外来問診票』と、『こども心療科の診察の基本的な流れ』の資料がダウンロードできるようになっています。初めて来院いただく前に、問診票を記載の上でご持参いただくと、スムーズに診察にご案内でき、お話をうかがう時間を十分にお取りすることができますのでご活用ください。今後も、相談にいらっしゃるお子さんやご家族が安心して受診いただけるような環境づくりに配慮してまいります。

※問診票等のダウンロード：琉球病院ホームページ【外来のご案内⇒子ども心療科】のページよりご確認ください。

外来部門

外来師長 伊敷 史子

外来部門において、こども心療科(予約制)の診察治療を行っています。対象年齢は1～15歳となっております。当院受診にいらっしゃるお子さんについて以下の点があります。また、下の項目になくても気になる点がありましたら、ぜひご相談ください。こども心療科においては、お子さんが健やかにその子らしく成長できるようご家族や学校の方々とも、発育や発達状況のとらえ方、状態に合わせた関わり方を一緒に考えます。お子さんの事で何か気になる事があれば、家族内で悩むだけでなく、まずは外来・地域連携室へご相談ください。

	お子さんのこんな事が気になる	お子さんへのアプローチ
就学前・学齢期	言葉の発達、落ち着きがない、お友達と遊べない、こだわりが強い、これからの就園・就学について 等	発育状況や発達の遅れ・偏りの心配、情緒・行動の問題に関して相談・評価・診断・治療や療育を多職種で行います。
思春期	他人の視線が気になる。友達とうまくいかない、学校に行きたくない、気分が沈んでいる。やる気がでない、自分を傷つけてしまう 等	自分自身についての悩みや不安、仲間関係や異性関係、自立をめぐる親子葛藤など思春期の不安や適応の問題についてお子さんの希望をふまえながら相談、治療を行います。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 池間 ゆかの

地域医療連携室では初診のご相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な課題や就労、社会資源、退院先に関して等様々な内容のご相談をお受けしています。今年度は入退院支援室も発足し、これまで以上に迅速に対応できるよう体制を整えています。今後も患者さんやご家族の方、支援者の方々より受診・入院相談をお受けしておりますのでお気軽に地域医療連携室までお声かけください。